

平成29年度事業計画

我が国の65歳以上の高齢者人口は約3,500万人となり、総人口における割合とともに、その進行のスピードも主要国で最高の数値となっています。今後、この高齢化は更に進み、やがて“1人の若者が1人の高齢者を支える”という大変厳しい社会が予想されているところです。

このような中、国は社会保障改革により、支える側の高齢者を増やし、また心身ともに豊かな暮らしを送るために、働く意欲のある人はその年齢にかかわらず活躍し続ける“生涯現役社会”を目指すこととしました。

シルバー事業は、これまでも労働と福祉の両面を包括する新しい就業システムとして、高齢者自身の生きがいや活力ある地域社会づくりに寄与してきましたが、今後は育児・介護等における現役世代の下支えや、企業などの人手不足の解消等、労働力供給における補足的な面が加わり、より一層大きな役割を担っていくことが期待されています。

平成29年度の当センターは、このような国の方針を見定め、高齢者が地域で活躍していくために、スローガンである“心いきいき 生涯現役”のもと、第五次中期計画の重点目標として掲げている「会員拡大と組織強化」「就業機会の確保と拡大」「安全・適正就業」を主軸として、事業を行なってまいります。特に、会員数の伸び悩みや、公共契約に低迷感がみられる中、会員増強に向けた諸施策の実施や、自発的な就業開拓の推進、また各種イベントを通じた広報・周知活動等を積極的に行なっていきます。また昨年度に引続き、事故の発生件数が増加しています。会員一人ひとりが、“ノートラブル・ノークレーム”を実践し、安全就業を徹底することで、市民及び行政からの信頼を得るとともに、社会奉仕活動を含め、地域に役立つシルバーを目指してまいります。

項目別には、以下のとおりです。

広報・周知活動

- ・理事会や各専門委員会の動向、また会員の活動等を含め、センター情報の共有を図るため、シルバー会報誌「銀齢だより」を全会員に配付する。
- ・開拓先のニーズに合わせたパンフレットを配布するとともに、市民に対してシルバー事業の周知並びに理解を深めるため「広報まちだ」への掲載依頼を行なう。また、より詳細な事業内容を提供し、“安心・安全なシルバー”をPRするためにホームページの充実を図る。
- ・シルバーのイメージアップを図り、会員増強や就業拡大に繋げるため、「シ

ルバー交流まつり」を開催する他、「市庁舎シルバー展」を含む各種イベントに積極的に参加する。

- ・地域における受注相談並びに入会相談に応えるため、役員・班長宅等の協力のもと「連絡所看板」を引き続き設置する。

就業拡大・適正就業

- ・大口発注者を中心とした既存契約の継続受注や新たな職域の拡大、また新規取引先の開拓のため、民間企業や団体への訪問活動、並びに行政への働きかけを行なう。

- ・請負や委任契約に馴染まない地域ニーズに応えるため、実施主体である「東京しごと財団」のもとに行う一般労働者派遣事業を行なう。

- ・地域における会員の自発的な就業開拓行動を推進し、新規顧客の開拓並びに地域班の活性化を図る。

- ・公平な就業機会の確保を図るため、同一作業場所における長期継続就業会員の交代促進、並びにワークシェアリングを推進する。

- ・市の観光関連事業（薬師池公園、北部丘陵）等における情報収集を行ない、受託に向けた働きかけを行なう。

- ・コンプライアンス指導強化に基づく、適正な契約の推進と現場の適合を行なうとともに、会員に対してその理解を深める。

調査研究・相談

- ・入会希望者に「アンケート」を行ない、その動機や意識を含め、シルバーに対する理解度を把握する。

- ・会員の満足度を把握するため、全会員対象の意識調査を集計・分析し、今後の事業運営の一助とする。

- ・「健康・生活アンケート」を引き続き実施し、シルバーで働く社会的有効性について介護予防効果の観点から検証をする。

- ・就業等の相談について、通常のカウンター業務の他、定例の相談会を毎月実施する。

- ・未就業会員の現況調査を行ない、その理由を把握するとともに、就業希望会員に対して合同の相談会を開催する。

研修・講習

- ・全ての入会手続き者並びに既会員を対象に、個人情報守秘義務を含む就業マナー並びに安全就業研修を実施する。

- ・センターの現況や情報提供、また地域班の役割について理解を深めるため、地区担当委員並びに班長研修を開催する。

- ・仕事別グループ会議を開催するとともに、自主的なミーティングを奨励し、円滑な就業環境の確保や、マニュアル作成を含めた作業の標準化及びレベルアップを図る。更に、職種横断的な合同リーダー会議を企画し、情報共有や相互理解を進める。

- ・受注の多い技能系職種を中心に、後継者育成のための技能研修を行なう。

- ・シルバー会員が、地域の支え手となれるよう「認知症サポーター養成講座」を引き続き実施する。

- ・上部団体である「東京しごと財団」及び第七ブロック主催の研修に積極的に参加する。

組織整備・活性化

- ・定例理事会を毎月開催し、センターの重要方針の決定や諸規程の整備等を行なうとともに、必要に応じて臨時理事会を開催する。

- ・六つの専門委員会を定期的に開催し、所掌事項の検討や計画、実施を行なうとともに、合同委員会を開催し、情報共有並びに意思疎通を通じて連携の強化を図る。また委員会自体の果たすべき役割や機能について再検討を行なう。

- ・地域におけるセンター事業の推進役である地区担当委員・地域班長の合同会議を開催し、事業報告を含めたセンターの現況と課題について認識を共有する。

- ・地域連絡会を全地域で開催し、センター動向の伝達を図るとともに、会員相互の情報交換や地域班の活性化に向けた課題の共有化に努める。

- ・会員拡大を図るため、会員自身による紹介活動を奨励するとともに、入会率の低い地域や女性会員増強のための勧誘活動並びに説明会を実施する。

- ・会員や市民が気軽に交流できる場所として「シルバーサロン」の整備を行なう。

財政の安定化

- ・発注者の代金支払いについて、コンビニエンスストアによる入金を促進し、支払の利便性による資金回転率の向上や未収金問題の改善、また窓口業務の軽減を図る。

- ・会費納入について、事務の軽減並びに支払の利便性を図るため、全会員自動引落としについて協力要請を行なう。

- ・「銀齢だより」紙面における一般有料広告について、引続き募集・掲載を行なう。

- ・経費節減等の自助努力と並行しながら、行政に対して公的補助の維持・増額の理解や働きかけを行なう。

安全管理

- ・“安全は全てに優先する”の基本理念のもと、組織一丸となって“ノートラブル・ノークレーム”を目指す。
- ・「安全就業基準」の周知徹底を含む会員の安全管理対策について、ポスター掲示並びにリーフレット配布、安全情報誌の発行、また仕事別グループ研修において安全テーマを必須事項とする等、あらゆる機会を通じて啓発活動を行なう。
- ・各就業現場における準備運動を積極的に奨励する。
- ・「安全心得カード（オレンジカード）」の携行と裏面の緊急連絡先の記入の徹底を図る。
- ・専門機関と連携した交通安全講習の企画や、事故の多い職種の実例研修の実施、また「東京しごと財団」並びに第七ブロックが主催する安全研修について積極的に参加し、情報収集を含む知識の習得並びに自己啓発を行なう。
- ・現場巡回を定期的に行ない「安全就業基準」等に則した指導及び啓発活動を行なうとともに、事故件数の多い職種については別途特別巡回を実施する。
- ・仕事別グループ毎の安全対策の共有を図り、安全対策強化を推進するため、職種横断的な「安全大会」を開催する。

社会奉仕活動

- ・“ボランティア全員参加”を目指すため、地域班並びに職種班の自発性を重んじた社会奉仕活動を促進する。
- ・町田警察署並びに南大沢警察署との協定に基づく防犯活動支援を積極的に行なう。
- ・センターの統一ボランティア活動として、「駅周辺美化清掃ボランティア」を実施する。
- ・町田市のホームタウンチームの応援として、「F C町田ゼルビア」等の支援を行なう。
- ・福祉施設や各種イベントを中心に、「伝統・芸能」分野のお囃子・踊り・茶道等の出張ボランティアを行なう。
- ・「赤十字運動支援」「学校支援」など公益性の高いボランティア活動を実施する。
- ・町田市との協定に基づくシルバー業務中の「高齢者等見守り活動」並びに「空き家対策」の周知啓発・相談事業に協力する。
- ・未来を担う子供たちへの支援を検討する。

以 上